

トヨタ自動車北海道

ヨン、トランスファー、アルミホイールなど）を手掛けている。

「自動車づくりを通して社会に貢献を」というトヨタ指針のもと、「良き企業市民として、豊かな社会づくりに貢献する」を企業理念に掲げ、トヨタグループの「北の拠点」として、「世界一のユニットメーカー」を目指している。

こうした中で同社は、環境対策に積極的に関わり組んでおり、設立当初から環境汚染未然防止対策を徹底しながら、省エネルギー、廃棄物低減、化学物質管理などを推進している。

同社では、トヨタグループの環境対応を定めた「トヨタ地球環境憲章」に基づき「環境方針」を設定。各自の行動目標も記入したカードを全従業員が携帯している。また、従業員への環境教育を重視し、新規入社者は

「自動車づくりを通して社会に貢献」を实践 全社あげて環境保全対策推進

全員を対象に環境教育を行うとともに、各職層にも環境教育を実施し、環境保全活動のレベルの向上に努めている。

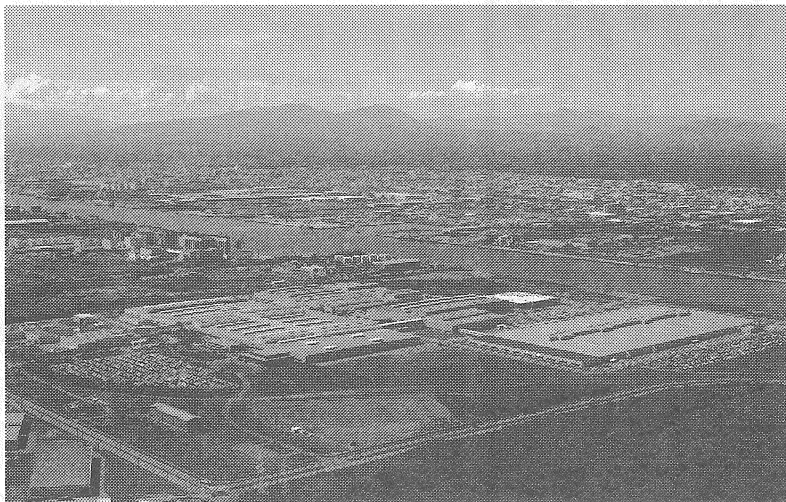
「環境問題は、従業員一人一人が自覚と責任を持ち、自らの問題として考え、環境保全を推進していくことによって、はじめて社会から信頼を得ることができる」（田中義克社長）。

ISO14001認証取得（1999年）、グリーン調達完了（2002年）、生ごみ処理機導入（2002年）を進める一方、地元勇払地区の地下4500mに埋蔵する天然ガスの産出にあわせ、2002年に天然ガスを導入し、年間3000トンのCO₂削減量を実現した。さらに2007年からはコーシエネレーシ

ヨンステムを稼働させ年間2万トンのCO₂削減を図る。

ゼロエミッション活動（直接埋立廃棄物のゼロ化）は2001年に達成し、現在も継続中だ。化学物質管理では、『欧州ELV指令』をはじめとした海外規制への対応も完了させ、グローバルな環境対策を展開している。

また、雪を夏まで保存して、冷房に使用する「雪冷房」の実験を開始。保存する雪の量は約560トに及び、冷房能力は1440万kWhに達した。



同社はトヨタグループの北の拠点として、世界一のユニットメーカーを目指している。

同社では現在、「第3期環境取組プラン」（2006～2010年度）を推進中で、排出物を出さない生産活動などを柱とする環境保全対策を進めている。

最近の環境対策のトピックスとしては、「エコファクトリー活動」、「エコセンター」、「雪冷房」がある。新工場建設時に、エコファクトリー計画（企画段階から操業まで環境対応を確実に織り込むこと）を実施。工場屋根の高さを低くし（梁下6.5mから5.5mへ）、空調容積を低減。

また、採光・換気用モニターを変更し、平均照度の増加（自然光分は56ルクスから76ルクスへ）を図った。

「G」は集積所への持込

▽本社 苫小牧市字勇払145番1▽URL <http://www.tmh.co.jp>

地域の連携では、同社を事務局として近隣8社で構成する「苫小牧ゼロエミッションネットワーク」を立ち上げ、環境保全の情報交換や蛍光灯・乾電池の共同回収事業、先進企業視察会などを実施している。